

研究協力をお願い

昭和医科大学では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

ギャンブル障害の症状の変化による CAARS の値の変化について

1. 研究の対象および研究対象期間

2020 年 1 月 1 日から 2026 年 5 月 31 日までにギャンブル障害で烏山病院に入院を経験して退院した患者さんを対象としています。

2. 研究目的・方法

ギャンブル障害（ギャンブル依存症）の方は ADHD の合併が多いと言われていて入院時に CAARS という自記式の ADHD のスクリーニング検査を行っていることが多くあります。ただギャンブル障害の症状と ADHD の症状は似通っているためギャンブル障害の症状が強く出ている場合は元々の自分の状態を正しく判断できていない事もあるのではないかと考えています。そのため退院後や退院近くなると再度 CAARS を行って ADHD 傾向の有無について確認していることが多くあります。

今回は入院前（直後も含む）・退院後（直前も含む）で二回 CAARS を行っている患者さんのデータをまとめて変化があったかどうかを確認したいと思っています。

3. 研究期間

昭和医科大学における人を対象とする研究等に関する倫理委員会審査後、委員会から発行される「審査結果通知書の承認日」より、研究実施機関の長の研究実施許可を得てから 2027 年 3 月 31 日まで

3. 研究に用いる試料・情報の種類

性別・年代・初診時に行った検査（SOGS、LOST、AUDIT）、入院日数、退院環境、入院時、退院時、現在のギャンブル歴、クリーン歴、自助グループへの通所頻度などを診療録から確認させていただきます。

4. 外部への試料・情報の提供

該当しません。

6. 研究組織

研究責任者	昭和医科大学烏山病院	常岡俊昭
研究分担者	昭和医科大学病院附属東病院	関静香

7. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出ください。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象者としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：昭和医科大学病院附属東病院

氏名：関静香

住所：東京都品川区旗の台 1-5-8

電話番号：3682 (内線)